



地球のためにできること

マンホールトイレの活用



マンホールトイレって知ってる？ 災害が発生したときにマンホールのふたを外して便座を取り付け、排せつ物を直接、下水道に流せる優れものなんだ。東日本大震災で重宝され、積極的に

きょうのテーマ

災害時 直接下水道に流す

6 安全な水とトイレを世界中に



活用している宮城県東松島市を取材したよ。

マンホールトイレは家庭の水洗トイレのように便器に直接、水を流すのではなく、周りにある貯水槽の水を地中の配管に流す仕組みです(イラスト)。



災害発生から被災地に届くまで数日かかる仮設トイレと違い、マンホールトイレは下水管が無傷だと、すぐに使えるのがメリットです。

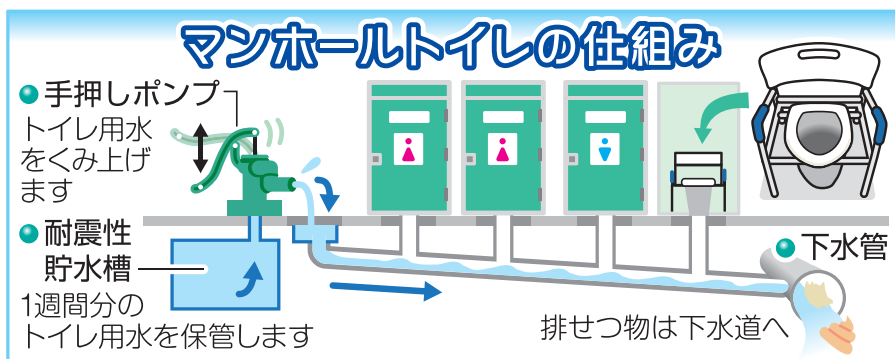
みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ



マンホールトイレを設置(せ)つえいする東松島市矢本一中の生徒たち
直径30センチほどのマンホールのふたを開け、便座を設置します

した。現在、市内の学校など17カ所の指定避難所に計148基を配備。囲いや便座などを近くの防災倉庫で保管しています。災害に備え普段から地域のの人に使い方を知らせてもらうことも大事です。市は啓発動画を作りPRし、防災訓練や地域の運動会やまつりなどで住



民に、トイレの設置や使用を体験してもらっています。小学生なら高学年から組み立てられ、10分ほどで完成します。市によると「想像していたより清潔」「抵抗なく使える」と利用した人に好評だそうです。

使うための環境の改善にも努めています。強風で囲いが飛ばされないよう重りなどで固定したり、夜も安全に使えるよ

う太陽電池の照明を設置したりしました。幼児や車いすの利用を想定し、広いスペースの多機能トイレも用意しました。東日本大震災では、市内2カ所の避難所があったマンホールトイレが役に立ちました。

市下水道課の小田島毅さん(66)は「災害時だからといって、トイレを我慢することはできません。みんなが快適に使用してもらえよう、今後とも工夫を重ねていきます」と意欲的です。

今週の注目ニュース

◇19日(金) 地図の日

1800年のこの日、測量家の伊能忠敬が日本地図を作るため、蝦夷地(現在の北海道)の測量に出発しました。21年に実測地図「大日本沿海輿地全図」が完成。国土の正確な姿が分かるようになりました。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 備えのコンパス